

令和5年度対話ミーティング質疑応答(令和5年11月22日開催)

	区分	意見等	町の回答
1	商品開発	町が商品開発したものに、個人や事業所として町に何かアプローチをかけたい時に、町からの応援があるのか。また、町の具体的な施策があれば、教えていただくと今後、積極的に頑張っていきたいと思うので、教えていただければありがたいです。	起業または創業に対する支援は用意しています。詳しい内容を担当窓口である水産経済課商工労働係に相談して欲しい。
2	各団体で提供する弁当	町に関わる団体の会議に出た時に、弁当をいただくことがあるが、町外事業者の弁当の方が多い。町は商工業者に支援を行っているのに、町外から弁当を買うことに対して矛盾を感じます。町内事業者の弁当を使って欲しい。	鹿部町産業振興基本条例では、町民や事業者はなるべく町内のものを扱いたまうとしている。これから条例の浸透を一生懸命やらないといけないですし、町内のものを扱うように職員にも伝えます。一方でなかなか鹿部町から出られなくて、鹿部町以外のものを食べられない方々が喜ぶ場、例えば、敬老会などの場合は、すべて町内でなくても、時と場合によって色分けしてもいいのかなと思います。
3	敬老会	敬老会で出された弁当は、高齢者が食べるにはとても量が多かったです。年齢を考えている弁当なのかなと感じました。私の知る限りでは評判が悪かった。あんなにたくさん料理でなくてもいいと思います。それで財政も縮小できるだろうから、違う方に使ってもらえたらと思いました。	お弁当は難しいですね。少し悪いを出すと、前のいいのがわかってる人だと、なんだこれは、とか言ったり、もったいないと言う人もいれば、様々なので。ちょっと見栄え良くして、最低この値段でやろうかなと思うと、量だけ多かっただけだったり。なかなか難しいんですけど、高齢者だったら、高齢者にといい風なことを考えながら、今後注文するようにします。
4	商工業振興事業補助金	なぜ町民のお金を使うのに非公表なのか。公表したら批判がくるから非公表なのですか。もうちょっとオープンにしてほしいと思います。	非公表にしているのは評価者の名前のみです。評価する方が分かると、そこに対する働きかけやプレッシャーなどがある場合は、間違った評価になることを考慮して、非公表にしている。事業は公表しています。
5	商工業振興事業補助金	利益を出して、補助を貰わなくても自分たちの会社の力で十分やっつけられるようなところもあると思ってる。そういうところにも補助金を出している。町民のお金だからって遠慮がちな人もいて聞いている。企業努力で利益を十分出しているところには補助はいらないのではないかな。	この事業の目的は、体力的に弱い企業などを救うというよりは、これから頑張るんだ、これから生産性を上げてもっと稼ぐことができるようにしたいんだというところに、支援するというのがこの制度の目的です。そこが難しいところで、弱いところには弱いところの支援がまた必要だと思っていました。
6	商工業振興事業補助金	例えば、今車1台あって、人を増やしてもう1台あるとちょっと事業が拡大されていくという場合の、増やす1台なら補助の対象というのは分かりませんが、古くなって取り替える車に対して補助が使えるというのは、事業の拡大に繋がるのかなど疑問に思っています。	そのようなものを外部の人々に色々精査してもらって、今選んでもらっています。
7	海の状況	鹿部町でどうして昆布とか魚が問題になるのか疑問です。鹿部町はすごく海が綺麗で、魚がたくさん集まる場所だったが、現状はどうか。	海全体が温暖化などの複合的な要因で、今までのような生態系ではなくなっています。まさに鹿部町もそうで、これまで獲れていたものが獲れなくて、これまで獲れなかった、ブリやマグロが獲れるようになっていきます。
8	漁業	南茅部で昆布漁の手伝いに行ったとき、すごい量の昆布がありました。鹿部の昆布は美味しいですが、なぜ南茅部のような養殖という形に手を出さないのですか。	鹿部はもともと20件くらい昆布養殖をやっていましたが、その後、割がいいホタテ養殖をやっていきます。
9	海の状況	鹿部町は海がメインの産業なので、根本的な面で海を綺麗にすることは考えているのですか。	根本的に海がどういう状況で、どうなっているのかというのは、いろいろな方が試験していますが、根本的に変えるというのはまだ解明されていません。今は対処療法で、これをやったらどうなのかで、残念ながら年に1回しかその結果を見ることができず、その年が前年と同じような気象状況であれば、このデータの知見が積み重ねることができそうですが、気象も温度も毎年違う中で、これがいいんだろうということをずっとやり続けているのが今の状況です。
10	漁業振興	お歳暮シーズンに入りましたけど、鹿部のような漁業の町で、水産加工品をお歳暮でどんどん使ってくださいというチラシを使わないのが残念です。もっとPRして欲しい。	道の駅のお歳暮は売れていますし、私も使っています。チラシもどこよりも良いチラシが入っていますが見たことありませんか。
11	シルバーハウジング	80歳の時をどうここで暮らしていくのかということになると、かなりきつい面がある。でも、私たちにとってはここは自然豊かで過ごしやすい。ただ、病気になった時は1番困ります。町長は、シルバーハウジングを2年後ぐらいから色々進めていくということですが、私の周りの状況を見ると切迫している。今まで地域のために貢献してきた方々が、健康の面などで鹿部から去らざるを得ない状況がある。ニーズはかなりのあるので、色々な方の意見を集めて、鹿部で人生を終えられるようなまちづくりを考えてほしい。	今シルバーハウジングの検討に入っていて、最速で令和7年度に着工です。笑顔で住み続けられる町ということで、早急に協議会を作りたいと思います。

12	地域交通 クーポン配 付事業	今は公共交通の利用だけという規制が入っていますが、あと3、4年は自家用車で移動したいと思っているので、これを拡大して、例えば、ガソリンを2、3回入れられるような金額まで拡大してもらえれば、個人的には助かります。	限られた予算の中で、過疎債を活用しています。いろいろなメニューがあり、その中に合致した事業で、高齢者の福祉ということでやっています。ガソリンの方も、なんとか対応するようなものを考えて、今のご意見を参考にしながら、検討してまいりたいと思います。
13	ゼロカーボ ン推進事業	「大沼公園国定公園の豊かな自然と調和した、安全で住みよいまちを作っていきたい」という文言がありますが、鹿部町から車で20分以上もかかる地理的な部分で、大沼公園が出たのが違和感を感じました。	我々の今進めている中では、単町ではダメだろうと。広域で物事を進めようといった意味では、大沼国定公園だとか、森町だとかと今連携してやっています。私が最近言っているのは、道南の40万圏できっちり1つとなって、そこで食料だとかエネルギーだとか、経済が回るような強い地域を作ることが、我々の小さな町でも、生き延びていく、持続可能な町づくりになるということからするといいのかなと思った点と、あとは、折戸川が噴火で遮断されて大沼ができて、今でもその水が流れていて、その水の加減で、この豊かな海につながるという意味でこうしているのか、それとも単純に、住む地域として、エリアとして、大沼の素晴らしい自然もあるので、そこも調和しなさいよといったものなのか、経緯が定かではないですが、気になったとしても、ぜひ、観光広域でもっと頑張っていくと思っていただけたらいいと思っています。
14	安心な町	鹿部町にこのまま住むのが不安です。元気だけど、先を見込んで函館の施設に移られた人もいます。なんで函館かという安心だからです。安心な町という形を鹿部町がもっとPRといますか、具体的にその対象者に対して、こういう心配があったらこうですよとか、行政との繋がりという形をPR。できたら鹿部町で人生を全うしたいと思っていますが不安です。不安解消という形で、なんかアピールしていただく方法があればお願いしたい。	本当に不安にさせてしまっている状況なんだろうと思います。今は、見守りが必要な方でも大丈夫なようなお住まいを用意するという、あと、本当の不安について、町の保健師も頑張っていて、他の大都市よりは、綿密にお話する状況になっていると私は思っています。都会の方が優しいって言われればそれまでですが、ただ、絶対に大都市にある大型の医療体制とか、それには、小さな町は敵いませんので、そういったものに対するまでのケアとかをしっかりとやる。あとは、見守りのできるものをなんとか早く、この厳しい財政の中でも、先に検討していくといったことを、今やっているところなので、よろしくお願いします。
15	医療	この先も安心して暮らすためには医療が大切かなと思っています。よく皆さん森町の方へ行くと言っていますが、いろんなことを考えるととても不便です。せつかく病院があるのに、今の状態がいつまで続くのか、良くなる改善してほしいという希望はあります。	どういう風な医療のあり方がいいのか今検討していかなければいけないところなんです。あと、医者との関係、すごくデリケートな問題で、こちらがどうこう言った瞬間に、近隣全部に噂が走るみたいな状況らしいので、そのデリケートなものについて、水面下で色々考えていく。それで、皆さんの話に繋げていく、今のところ一生懸命やっています。
16	教育	これから多分幼稚園も小学校も中学校も、津波の関係で移設が検討されると思うので、町の財政もかなり建設の方でかかると思います。今、各学年が1学級ですか、ということは全部で小中9学級ですよ。ならば、小学校と中学校を並べて、できるだけあの建物を合理的に使って欲しい。	小中一貫校については、今、その方向で進めていて、一応、令和9年を目途ということですけど、なるべく早くやるということで、大きな議論にして、小さな協議会ではなくて、ワークショップだとか、いろんな、そういった体制を作って、町づくりのご意見をいただければいいのかなと思います。
17	教育	別海高校では、町外から高校生が来るように、寄宿舎を作ったり、町の会社の方が提供したりしている。それで野球の大会でベスト4になった。鹿部町は小さい町でも2人のプロ野球の選手を出している。高校は町外に行ってるんだけど、私は高校も作ったらどうなのかなと思います。音威子府は1,000人にも満たない村なんですけども、村立の高校があって、道内はもちろん全国から集まっている。みんな寄宿舎で生活している。鹿部町でも例えば水産科と、これからのために福祉科とか、それから、普通科でもっと学びたいという子がいたら、3つのコースを作って、それぞれが夢を実現できるような。幼稚園から高校までは揃えますよ、だから来てくださいというような構想もあっていいのではないかな。	別海高校すごかったですよね。なんで強くなったんだろうなと思っていたら、やっぱりそういう風な背景があったんですね。学校に関しては今状況が変わっていて、離れていても最高の授業がオンラインで受けられるとか、集積したところではなくて、過疎の町で、広々としたところで学びたいとか、あとは、サテライト的に1クラスだけとか、今も函館の高校や大学など、いろんな人たちが、高校のない鹿部で、何か課題解決に向けて、定期的にやろうかとか、できることからやっていきたい。
18	ビレッジプラ イド研修	今年の初めに、プロジェクトを作って、職員の方が発表しましたね。聞いていて、私、今でも忘れられないのは、ぼっこん便所のこと。自分が友達を鹿部に呼ぼうとしたけど、ぼっこん便所だからとても恥ずかしくて呼べない、そういう体験があって、それをみんなで調査して、どうしたらいいかを考えようというというのは、結局私は現場主義だと思います。町の職員の方も現場に行って、そしてそこから何が悩んでいるかを学んで、私たちが役場に行って話す、そういう相互関係がとても大事だと思います。	ぼっこん便所は、私が職員だった頃は、早く変えた方がいいみたいなことを言っていたので、今、町長の立場になったので、それも今、職員からいただいた意見でして、今年は各職員個人から、いろんな提案をいただいているので、それを一旦、私や総務・防災課が見て、あと担当課、これはこの課でというのを割り振りして、その中で議論して、採用、不採用しないっていうのを決めて、やるというスキームが今決まっていますので、しっかりと私も見ていきたいなと思っていました。どうやってやるかということだけを考えながら進めていきたいと思っています。

19	学校の引き取り訓練	<p>引き取り訓練の話を広報で見ますが、本来すべきことは、津波の時とか、そこにいる子供たちと、先生が責任を持って安全なところに避難をする、そういう訓練をよくニュースや新聞でローカルで見ます。そういう訓練は1度も広報で見たことがないので、それはする予定がないのか、本当はしているけれども広報に載っていないのか。</p>	<p>幼稚園と小学校が連携した形で、引き取り訓練を実施しています。それで、災害の状況が一定ではないということを前提に、本当にひどい時は、引き取るとかそういうレベルでない時も当然あります。昔の大噴火の時は、学校が責任もって子供たちと一緒に南茅部の方に歩いて逃げたとか、そういうことも最悪あり得るでしょうし、あと、施設にとどまるとか。もしかしたら、まだ状況が最初の方の状況で、親に預けた方がいいという状況のことも想定して、小学生と幼稚園児とか、一家族でバラバラになってるものを1つにする意味で、引き取り訓練をしています。親が来て、幼稚園児、そして小学生という形での訓練、あらゆることを想定した、そのうちの1つだということ認識していただければと思います。また、津波の時の避難訓練として、避難場所を決めているのですが、そこに逃げるという訓練もしていますし、津波だけでなく、噴火、火災、地震という形で様々な訓練をしています。</p>
----	-----------	--	---